落日のパトス
7
Rakujitsu
no
PATHOS
Presented by
Tsuyatsuya
艶々
ヤングチャンピオン
コミックス
YC
COMICS

RAKUJITSU-NO-
PATHOS
落日のパトス
7
Presented by
Tsuyatsuya
ヤングチャンピオン
コミックス
COMICS

RAKUJITSU-NO-PATHOS
落日のパトス 7

CONTENTS

［初出］
別冊ヤングチャンピオン
2018年8月号～
2019年2月号

［ここまでの「落日のパトス」は］

漫画家を目指す青年・藤原の住む部屋の隣室にかつての恩師・仲井間が引っ越してきた。同じアパートの〝隣人〟として交流を始めた二人…。

別々で旅行に来たはずの熱海で劇的な再会を果たした藤原と仲井間。そのまま、なりゆきで二人っきりの家族風呂に入ることになったのだが、仲井間は裸を見られる恥ずかしさから藤原に目隠しをしてしまう。そして、視界は塞がれたものの肌が触れ合うことに興奮してしまった藤原は絶頂に達し暴発…。異常なる混浴を二人は満喫するのだった。

一方、熱海旅行では体調を崩してしまい、あまり楽しむことができなかったまさみ。後日、彼女から誘われデートに出かけることになった藤原だったがワインの飲み過ぎでベロベロに酔いつぶれてしまう。目を覚ますと眼前には下着姿のまさみがいて…!?

【人物紹介】

藤原 秋
Aki Fujiwara

漫画家の青年。仲井間にかつて犯した行為を後ろめたく感じていた。普段は物静かな性格だが、性的な好奇心は人一倍旺盛。

仲井間 真
Makoto Nakaima

旧姓：祐生。藤原の高校時代の恩師。現在は結婚し、退職。夫の仕事の都合で藤原の住む町に引っ越してきた。年の差婚で、男性経験は夫ひとりだけ。最近、夜の夫婦生活に物足りなさを感じている。

神保 まさみ
Masami Jinbo

藤原が大学時代に所属していたサークルの後輩。現在は藤原の仕事を手伝うアシスタント。垢抜けない感じの少女だが、胸が大きくスタイルは良い。藤原のことを狙っている。

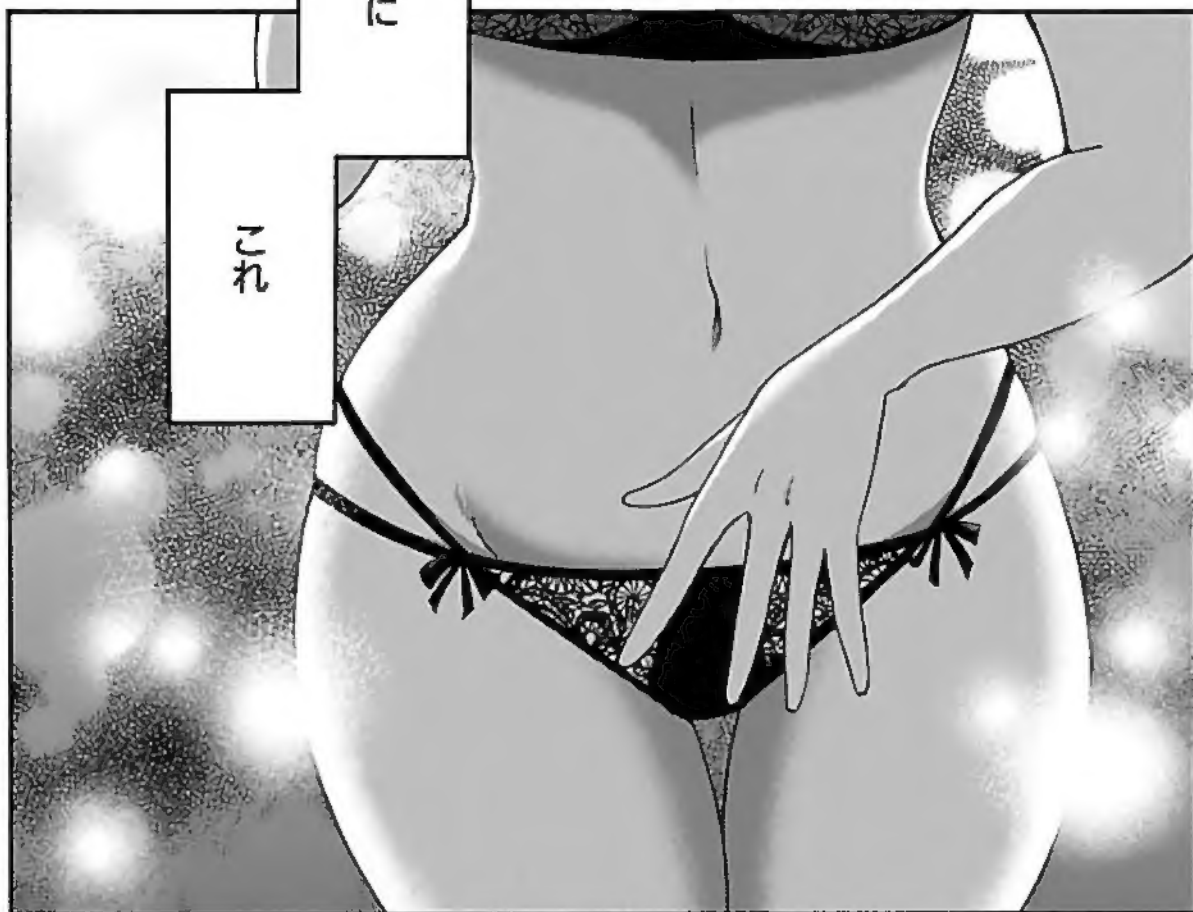
高杉 ミツアキ
Mitsuaki Takasugi

藤原のもとで働く新人アシスタント。３次元の女性には全く興味のない童貞。要領が悪く不器用。神出鬼没で突然現れることが多い。

2-3
祐生
第45話
僕ってゲスの
極みなのかな？

GERALD
ジェラルド
なに
これ

……
にょーん
……夢？

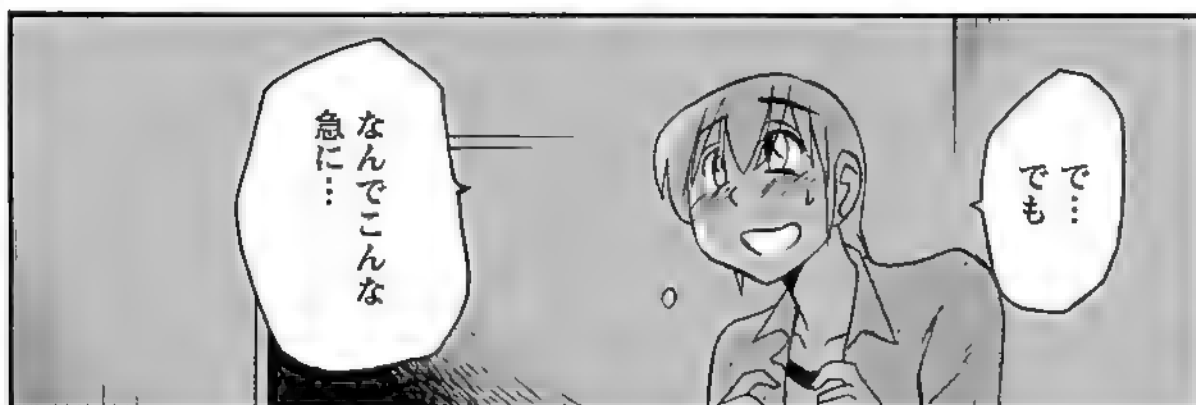
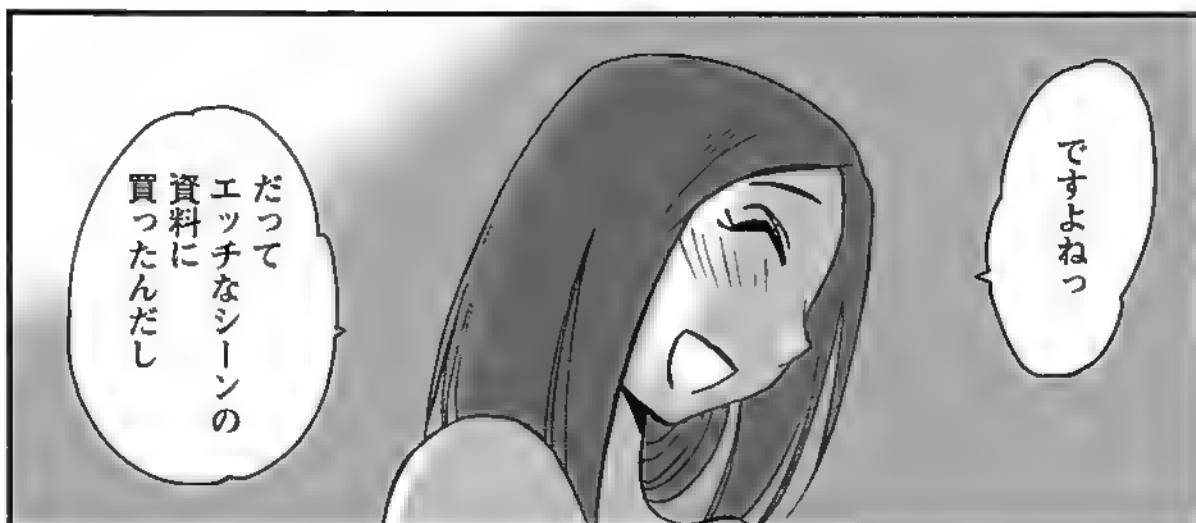
ふふ
夢じゃないですよセンパイ！

どうですか
これ
かわいく
ないですかあ？
やっ…
そりゃ…
もう…
かわいい…と
いうか…
エロ…い…って
いうか…
あはっ

ですよねっ
だって
エッチなシーンの
資料に
買ったんだし

で…
でも
なんでこんな
急に…

急じゃ
ないですよ
えっ

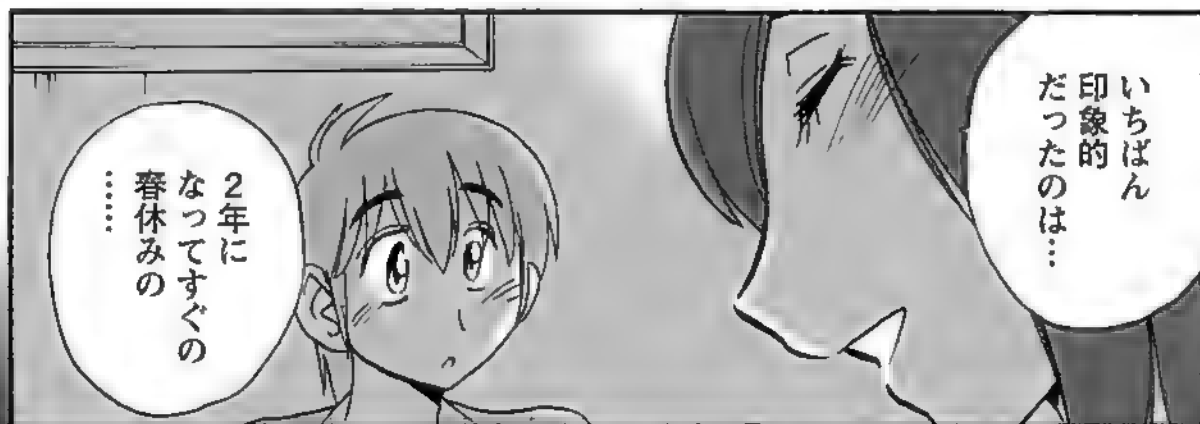
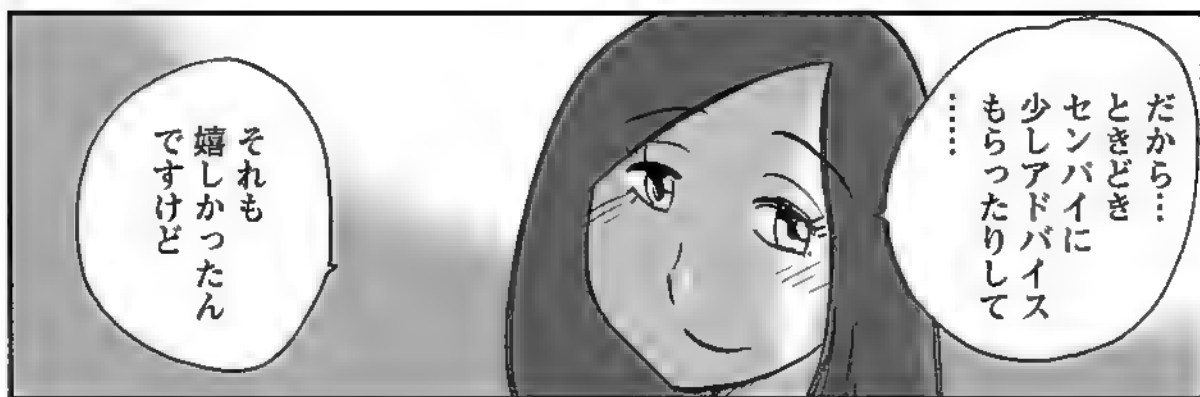
さっき少し
話しました
よね
大学の
頃の話…

うん

私
田舎から
出てきて
大学での夢が
漫研に入る
ことだったん
ですよ
高校にも
漫研は
あったんですけど
アニメオタクと
腐った系女子が
だべってる
ばかりで
漫研
マンガを
描いてる子
なんて
いなかったから
大学に
いったら
きっとそういう
同志がいるって
信じてたん
ですよね

まあ
それが
実際は
高校と
まったく同じ
空気感で
むしろ
より深く
澱んでる
っていうか…
口ばっかりで
全然描かない
自称プロ志望者
ばっかりで…
正直げんなりも
してたんですけど
その中で
唯一

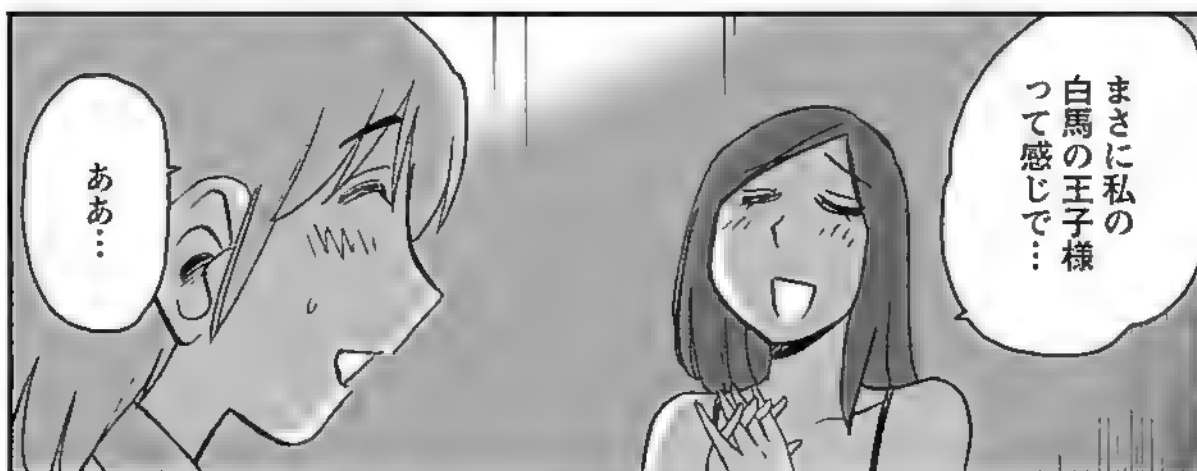
奥の方で黙々とネーム切ってるセンパイがいて
なんか人を寄せ付けない感じで少し怖かったんですけど
それでもちょっとだけ救われた気分でした
こ…怖かったんだ
なーんか孤高の人！って感じで
まぁでもたしかに…マンガ描いてるのは僕だけだったかな…
あれは単に寮の同居人がリア充パンピーだったから
部屋でやりにくくて部室でやってただけなんだよな…

だから…ときどきセンパイに少しアドバイスもらったりして……
それも嬉しかったんですけど
いちばん印象的だったのは…
2年になってすぐの春休みの……
おー神保まだ描いてんのー？
あ…はあ…
この前からずーっと同じのやってんじゃん
進んでねーな
ちょっとオレ見てやるよ貸してみ
あっ
漫画家になる！

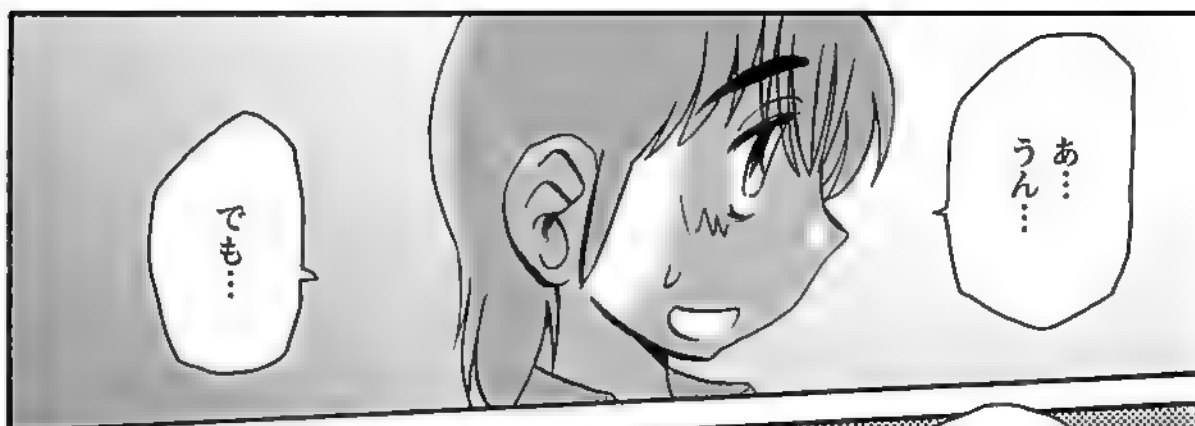
あー
オレも
見てぇー
まてよ
オレから
オレからー
やっ…
ちょっとそれ
まだ途中で…
大丈夫だよ
途中で充分！
あーあー
いわゆる
アレねー
よくある
ファンタジー
設定(笑)
ありきたり
すぎねえ？
これ
……
いわゆる
アレでしょ
転生モノ
今さら
それどうよ
ー？
……
アハハハ
こんなセリフ
言うー？
ちょっと
恥ずくね!?
みてみて
うわー
ちょっと
いくらなんでも
さー
こんな
セリフ…
え

センパイ
ネームは最後までいってから読むもんですよ
そんで
本人の了承を得てからね

な…
なんだよっ
藤原…ッ
センパイに
そんな口…っ
はい
あ…はいっ
彼女もきっと
描きおえたら
センパイに
見てもらって
アドバイス
ほしいんじゃ
ないですかね
パサ
ね
あ…
はいっ
ぜひっ
…ま
まあ…
そういうなら

いっ…いいけどさっ
別に
なあ
だってさ
は…はい
あのとき
がんばって
もう
センパイが
かっこよくて
がんばり
ますっ
ステキ
すぎて…

まさに私の白馬の王子様って感じで…
ああ…
そのときのことは
実はよく覚えている
たしかに普段から口ばっかのセンパイ共にちょっとイラっとしてたとこへ
あの行動で一瞬キレて
みてやるよー
あーっ
ネームを取り上げたまではいいんだけど

…そう
まさみちゃんの
中では美化
されてる
ようだけど
せ…っ
しぇんぱい
ダメっスよ！
ネッネームは
途中でみちゅ
ちゃっっちゃんと
最後まで
いってから
でないとっ
実際は
シンゾー
バクバクで
しぇッ
噛み
まくって
足なんか
震えちゃってて
もう…
いっぱい
いっぱいで
だからその後
あんなフォロー
するような
こと言って
さっと
描きおえたら
センパイに
見てほしいと
思いますよ！
そ…
それなら～
イタイ
思い出…
やー
カッコわるい
なーって
帰ってから
身悶えてた
んだよな！…

ね…センパイ 私
あのころに 比べたら
キレイに なったでしょ…？
ただの

あ…
うん…
でも…
あのころも
…あれはあれで
かわいかった
と…
わ
センパイの
そういう
優しいとこが
好きなんです
……！
センパイ…！
ちゅ
うわ

キス…
まさみちゃんとキス…
しちゃった…
ちゅっ
好き…? 僕のこと好きって?
じゃあ
ちゅぴ
おわ
これは舌…!?
ベロチュー!?
し・ち・ゃ・っ・て・も・いいってことか?
ああ 酔ってて整理できない
くちゅっ
はっ
んっ
ひゃああ エロいっ
舌ってこんなに
やばい… コーフンする
でもしちゃうなら僕の「スキ」もないとダメなんじゃ…?
いや でもこれって……

これは
据え膳
だよね!?
ガッ
スキとか
キライとか
おいといても
ぼふっ
食べても
怒られ
ないやつ

センパイ
ドクン
ドクン
とうとう
まさみちゃんと
こんな……
!!

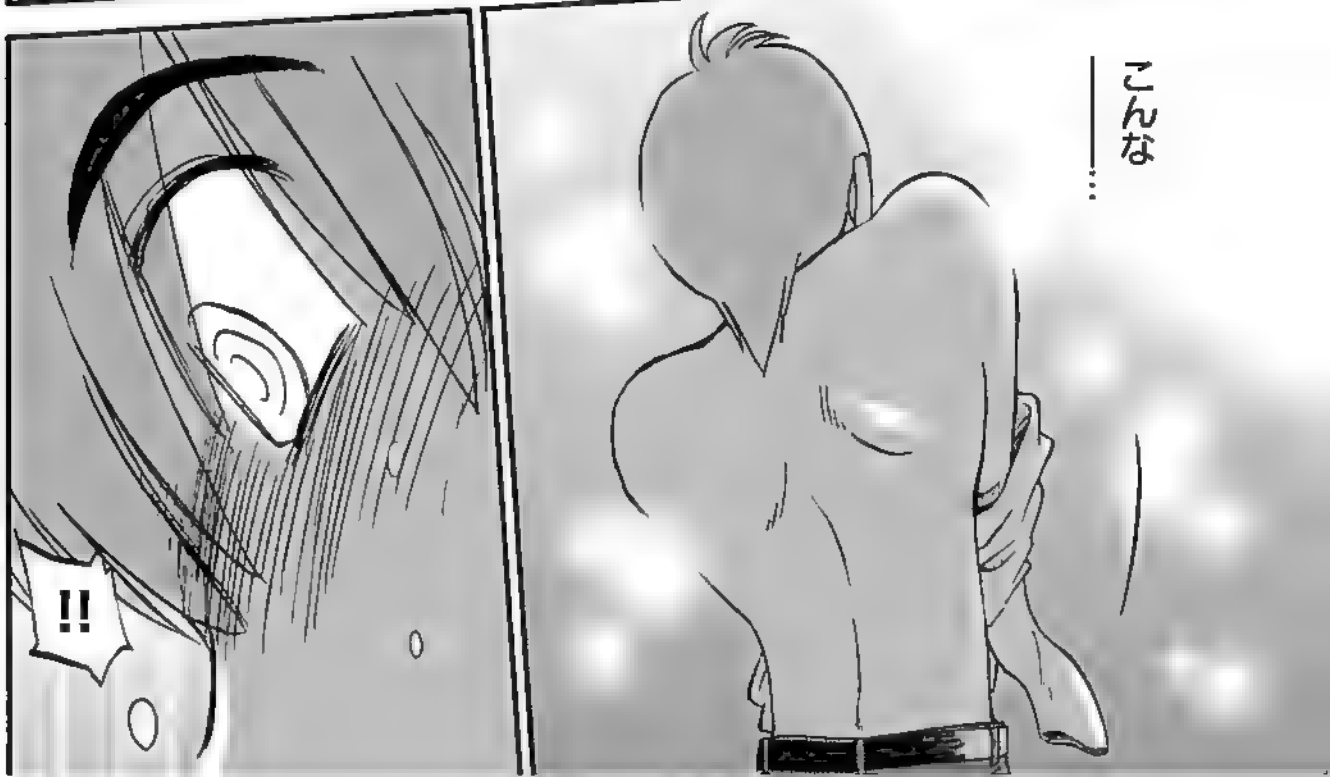
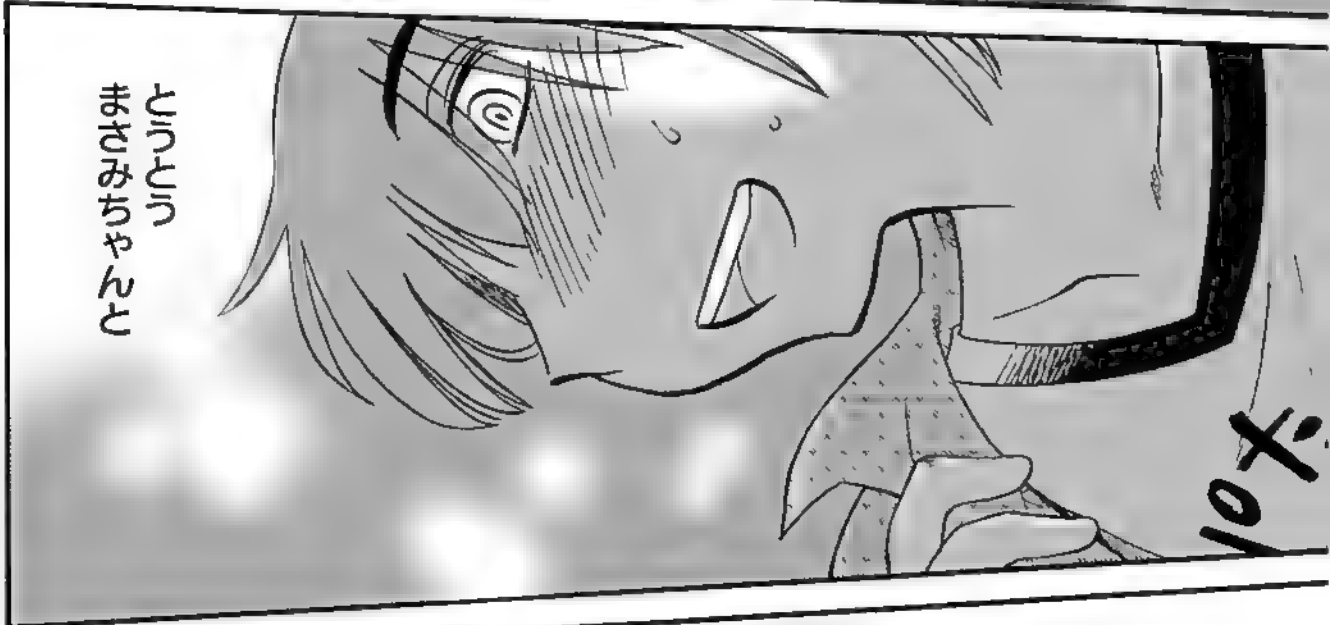
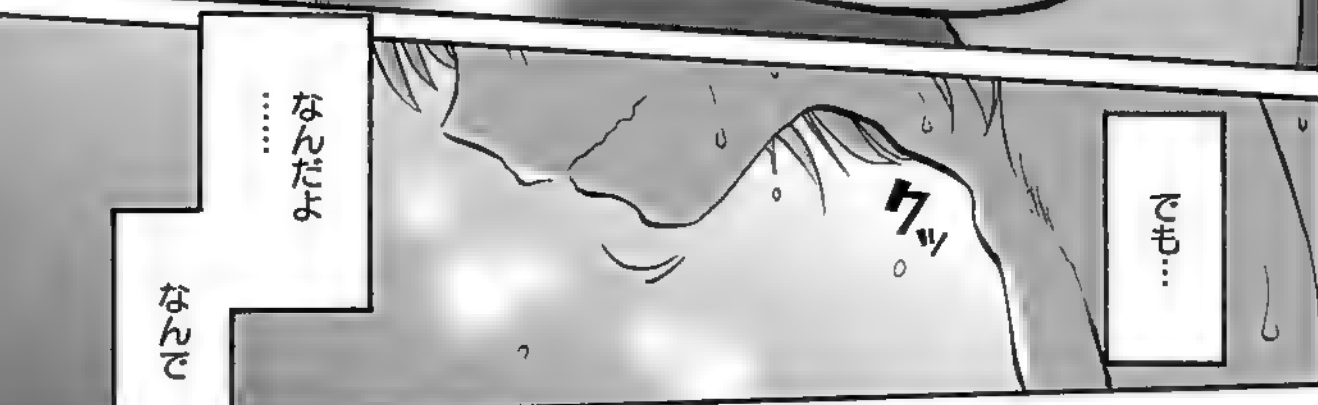
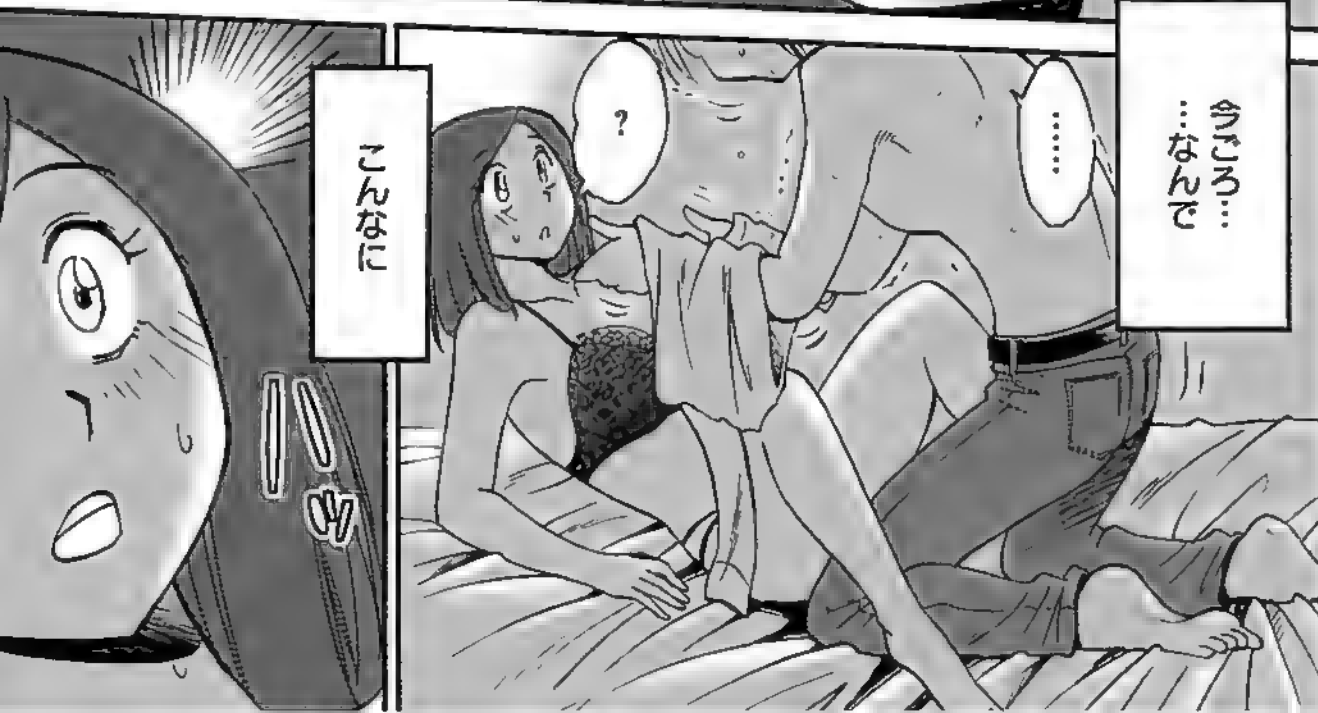
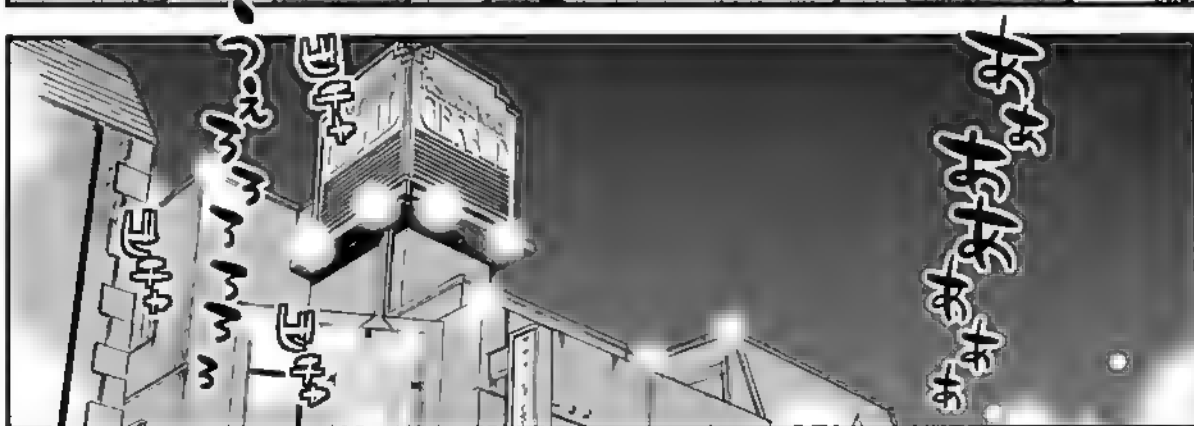
あ…
でも…
クッ
なんだよ……
なんで
？
センパイ…？
今ごろ…
…なんで
……
？
こんなに

こみあげて
くるんだ
ぐ
ぐ
ぷッ
ぐ
ぐ
ぐ
ぐ
うッ
いっ…

いやあああああ

あぁあああああ
ビチャ
うえろろろろろろ
ビチャ
ビチャ

ザー
センパイ…
あの…
気にしないで
くださいね
飲みなれない
ワインとか
飲んじゃったし
…ね

それに全部
センパイの
Tシャツで
受け止めて
くれたし…
あっでもでも
私のキモチは
ホントですから！
…うん
僕はもう
ジャー
きっとワインは
飲まない
——と
赤く染め上げた
Tシャツを
洗いながら
強く強く
ずっとそう
思っていた
ああ
赤色が
おちない…
ジャブ
ジャブ
ジャブ

第46話
朝帰りで
ナニしてたの？
ごちそうさまでした…
ダンナさんはまた出張で
特にやる事もない昼さがり…
しばらく
出張はナイってゆってたのにな～
まぁいいんだけどさ～
カチャ
カチャ
ふと
脳裏によみがえってくる
じゅ…

あの
濃厚かつ
異常な
時間…
明るい中で
はっきりと
見た…
アキくんの…
アレ…
そして
背中にナマで
おしつけられた
アレ…
………
あ…
だめだ…
なんか
思考が
混濁して…

洗濯物でも干そう…
カラ
カラ
ほっとくとおかしな妄想をはじめてしまう…
……はー
カラ
カラ
カラ…
原稿を落とした時もこんな感じだったのだろうか…
アキくん…
ウワサをすれば…
あの時のセンセイの後ろ姿ばかりが浮かんで…
ひとりごとデカイ…
アレを想い出すと…ついつい…

ついつい…なあに？
ほんと…
こーゆーとこ
はっ
先生いつからそこにっ
ずるいっ
で…ナニするって…？
そんなコト…言えませんから…
アキくんと私って同じコト考えてる
だからアブナイとは思いつつも
どーせならどっかでのんだりしたかったですよねー
ちょっとだけいいなって
あ
じゃあごはんでも行く？
思ったりなんかして…
あっほんとですか？ぜひ！

じゃあ原稿
落としたり
しないよう
頑張って
気持ちよく
晩ゴハン
しましょ

ハイ…
でも
ふふ
がんばって
カラ
カラ
パタン
そう…
やっぱり
アブナイ

だって
あきらかに
私はもう
さーて
じゃあ
今日は
シーツとかも
全部洗っちゃうか
アキくんを
再会したころのように
〝可愛い元生徒〟
というよりは

…というよりは
さあて そろそろ だけど…
なに着て 行こう かな…
つっても アキくんだし
ゴソゴソ
そんな 気合い 別に…

こんな…綿のダサイ下着…
替えて行った方がいいかな…？
いや！
なんでよ！なんでアキくんとゴハンするのに下着を!?
カンケーないし！
そんなの
まるで…
センパーイ
あれー？
……いや ちがう これは
あははー センパイってばもー！
!!
この声…!!

え？なに
なんで？
まぁイイワケダケドサー
あっでもわかります！
今日仕事してなかったのに

なんであの子が…
ぴとっ
うんじゃあセンパイ
外行きましょう

へっ？
気分転換ですよ！

デートしましょ！

えっ でもっ
そんな 急に…
ほら
センパイも 準備して 行きましょ

え!? うそ
アキくん
いっしょに ゴハン行くって 約束したのに

ていうか
あの女ッ

ほらほらっ はやくっ
いきますよ ──っ
ガシャン
じた
ばた
ちょ
まてよ
コラ

バッ

ガシャッ

アハハー

センパイってばー

チラ

!!
くっ…
あの子…！
こっちに
聞こえてるの
わかってて…
…！
……

ちぇ…
なによ

私とゴハン
食べるって
約束して
あんな
嬉しそうな
カオしてた
クセに

まあ…
あの子が
強引なのは
わかるけど…さ
ガチャ
あー
つまんないの

は――
つまんなーい
――ったく
アキくんてば
帰ってきたら
トクトク
どーゆーコト
なのか
問い質して
やんだから
クッ
カッチ
コッチ
カッチ
コッチ

帰って

こないんだけど

どーゆーこと!?
カッチ
コッチ
どこまで行ったかしんないけど
もう終電もなくなってるよね…

デート…
そう言えばデートって言ったわ…あの女…

デート…って
コトは…

食事のあと…
ほろ酔いになったりしたふたりは…

ぴちょーん…

そうだ…熱海だって…
そもそもあの2人で旅行してんじゃん…

温泉へカップルで旅行だなんて…
そんなの…その時点で………もう…
きっとこんなバカみたいなカオしてたんだわ…
アハー
ウフフー

熱海……
……か

アキくんの………フフフ
お
おちんちんすごかったたな

わたしの…
目の前であんな
はは血管…
ういてた…っけ…
わー…
やだ

私…
すっごい…
覚えてるよ…
は
アキくんの
おちんちんの
かたち…
モゾッ
あっ
アタマの
後ろで
ふるふる
して…
はっ
ゴソ…

はっ……
……
あ――……
ギシッ
あのとき
ギシッ
あれ・・
akan

くわえちゃえば
よかった……♡
クチュ
ヌチ
クチュッ
チュク
ギッ
あ
ん
はぁ
はっ
あっ
クチュ
ズチュヌ
ギシ
大麦焼酎
こねこ

そしたら…っ
あの
アキくんの…
床に落ちた
あの…
あれも…全部
はっ
は…っ
……
……
今…
アキくん
…あの子と
そんなコト
してるの…
かな…

うわ…
わわわ
なにこれ
ああ…
うう…
すごく…なんか…
やだ…
なんだろこの…苦しい感じ…
自分の…何か…
大事な何かを取られちゃったような…
Sabakan
ああそうだ…コレ
アキくんの部屋にあったマンガにあったっけ
そう…

ネトラレってやつ…？
こういうの
こういうせつない…
……？
ああでも…あれは…
男女が逆か…

チチチ
チュンチュン
チュンチュン
止まれ
タンタン
ガチャ…ガシャン
!
ハッ
帰ってきた!?
ガチャ
アキくん…!

え…
なにそれ!!
血…!?
あ…っ
先生?
なに? それ…
なにが
あったの…?
……
……
ハハ…
ハハハハ
なに!?
なんなの!?
アキくんっ

4コマのパトス

変なスイッチ入ったのは
アキくんのせい

子供相手にムキに
なるのもアキくんのせい

ヤケ酒しちゃうのも
アキくんのせい

そのせいで太ったのも
アキくんの
いやいや
ムチ
ムチ

第47話
なにがそんなに
イヤなんですか？

血……じゃないの……!?
はあ
血じゃ…ないです
ワイン…というか…

ワイン!?
なんで…いやそれより
いったいその…
……
フラ
フラ

……眠いの?
はあ…その…寝てなくて…
フラ
フラ

寝ないでいったいなに…
あの…だからとりあえず……寝たいっス
フワ〜

…お昼まで寝たら…いろいろまたそれから…
……
そ…そうねアキくん死にそうだし

じゃ…じゃあ起きたら教えてねっ
はい…おやすみなさい

やっと…
胃が
落ち着いてきた
……
はぁ…
ヨロ
ボフッ
あれから
結局

気持ち
悪さが
ハンパなくて
ずっと
トイレで
便器と
にらめっこ
だった
3回吐いて
は
は
は
は

はぁ…
ぼふっ
フトンで
横になれる
幸せよ…
しかし…

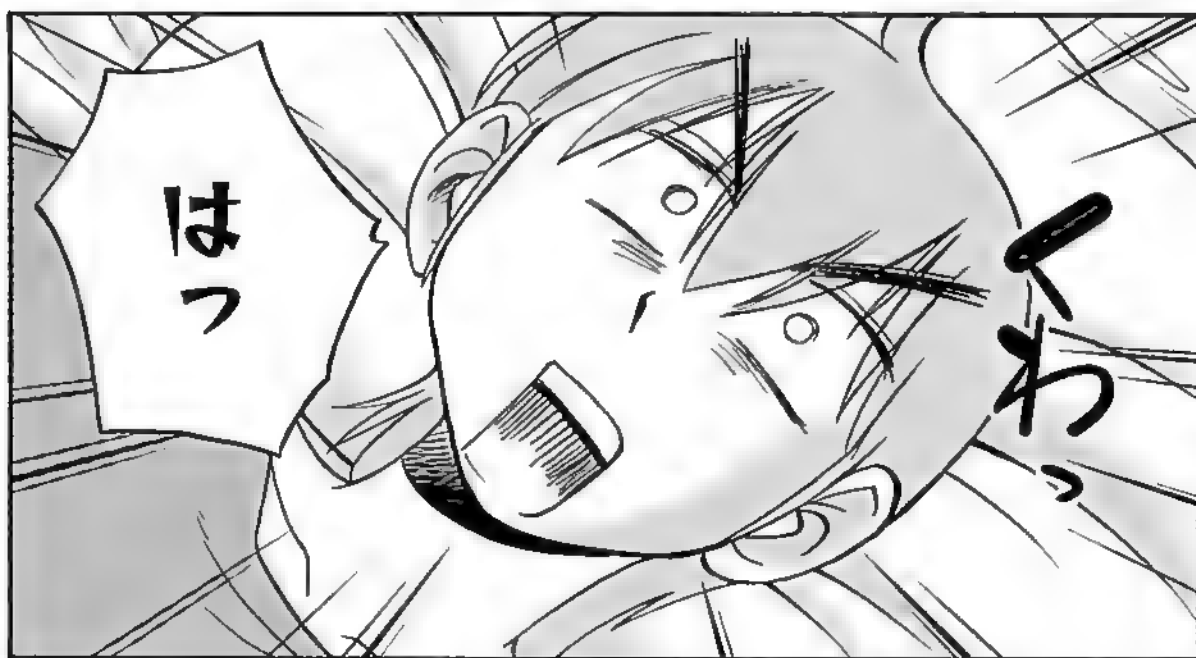
まさみちゃんが
あそこまで
迫ってた
のに…
ううう…
惜しいことを
……した…
ような
気がする…
それにしても
…まさみちゃん
は…
ホントに
僕のコトを
……
すぅ——…
本気の
……ぼく

ブロオオオ…
パァーーン…
タタン
タタン
タタン

はっ
ぐわっ

えっ
あ
5時!?
やば!
ガバッ
昼にって約束したのに……っ
……
ん?

でもこれまであんまり
先生のところにそんな賑やかな人が来るなんて…
ぴとっ
でー
なかったのに
アレっスー
………
やっぱりそうだったの―
…？
そっスよねー
この声…このしゃべり方…は

403
仲井間

いやー
でも

熱海で
2人を
見たときは
驚いたっスよ

ぼかァ
怪しいと
思ってたんス
けどねっ

ありゃーデキてんじゃないかな…って

ほほう

忘れ物をとりに来たけど
アキくんが爆睡して起きないんで

困ってウロウロしてたところを声掛けたのよ

ちょうど私も約束を
再びすっぽかされそうだったしね
うっ…
?

ミツアキくんあった?
はいっス!
いやあお騒がせしたっス
ゲーム機っス
しかしお隣さんとお話もできたしよかったかなァ……なんて
ハハハ
僕はミツアキくんの意外なコミュ力の強さに驚愕だよ

じゃあねー
失礼
しますっスー

面白い子ね…
ビクッ
せっ…
せんせ…

いやあ
思い込みとか
ハゲシイ子
なのかなー
あら
そう
私には見たままの
感想を言ってる
ようにしか
聞こえなかったけど

それより
昨日約束
もスッポか
された私に
はその理由
と顛末を聞
く権利があ
ると思うん
だけどどう
かしら
ハイハイ
ハイハイ
スゥ

正直…先生との約束もあったし…

断ろうとも思ったんですけど…

そーだ そーだ

ただ…まさみちゃん熱海でも温泉も入れずお酒すら飲めずで

楽しいことほとんどなかったかなー…って

でも僕は…先生と温泉入ったりしてたし

う…

なんかちょっと申し訳ないな…って
……

うん…まあアキくんのその気持ちはわかるとして…
それで2人で食事に行ったまではいいけどさ…

あ…朝まで…
食事…してたわけ？

ほう…？
それが口あたりよくって…
なんかすごく
すごく飲んじゃって

それでいつ店出たのか覚えてなくて…
あ…そうだ支払いもどうしたんだろう……？
とにかくもう…全く前後不覚で…

気づいたら
ホテルの
ベッドの上で
……
ホッ!?

まさみちゃんが
……下着姿に
なってて…
した…ッ!?

それも
なんかすごく
エロい感じの…
エロ……!!

え…
ちょっと
まって…
その
ホテル…って
まさか…

ラ…
ラブ…ホテル
……？
……
コクリ
……!!

そっ…
そこで…
下着で…
……って

そんなの…
あ…えっと
でも
なんも
してないいん
ですけどね

だいたい
アキくんが
そんな状況で

なにも
しないわけ
ないものッ

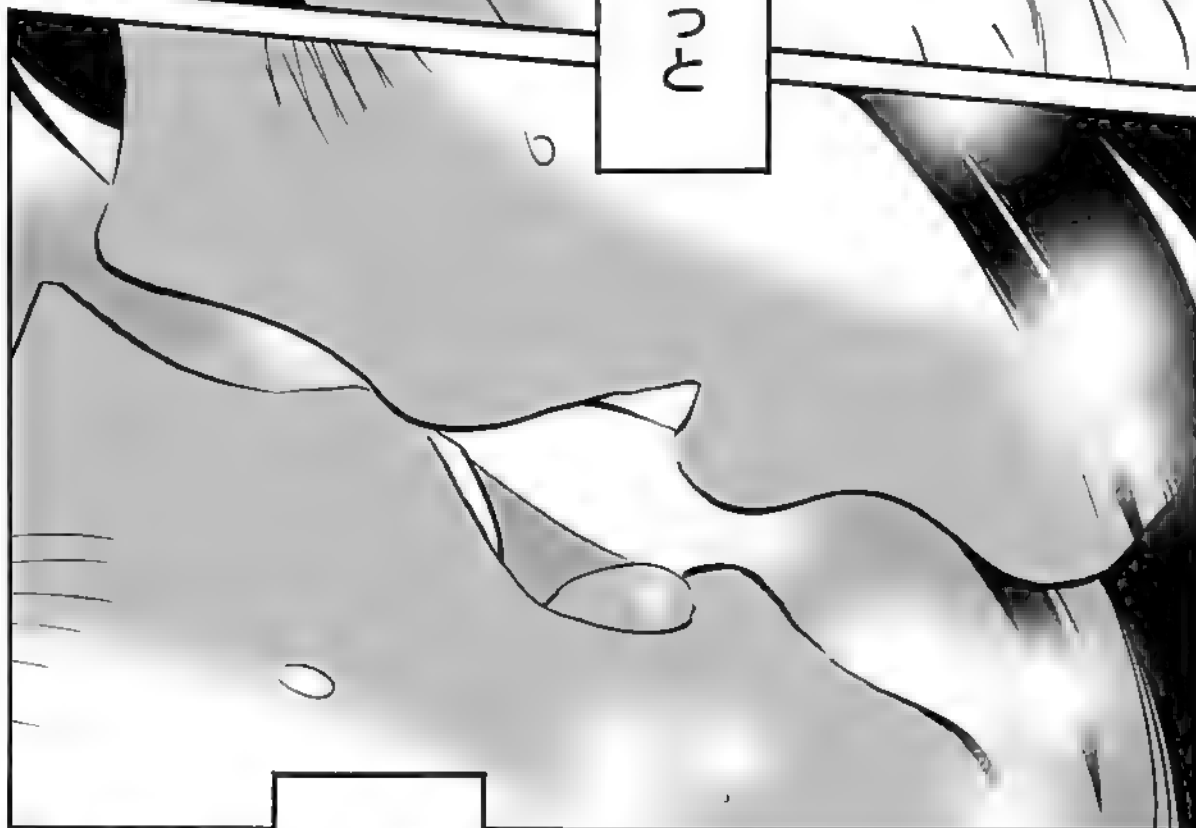
ビクッ

すごく長い…
舌を…
からませ…て
なんか…
すごい…

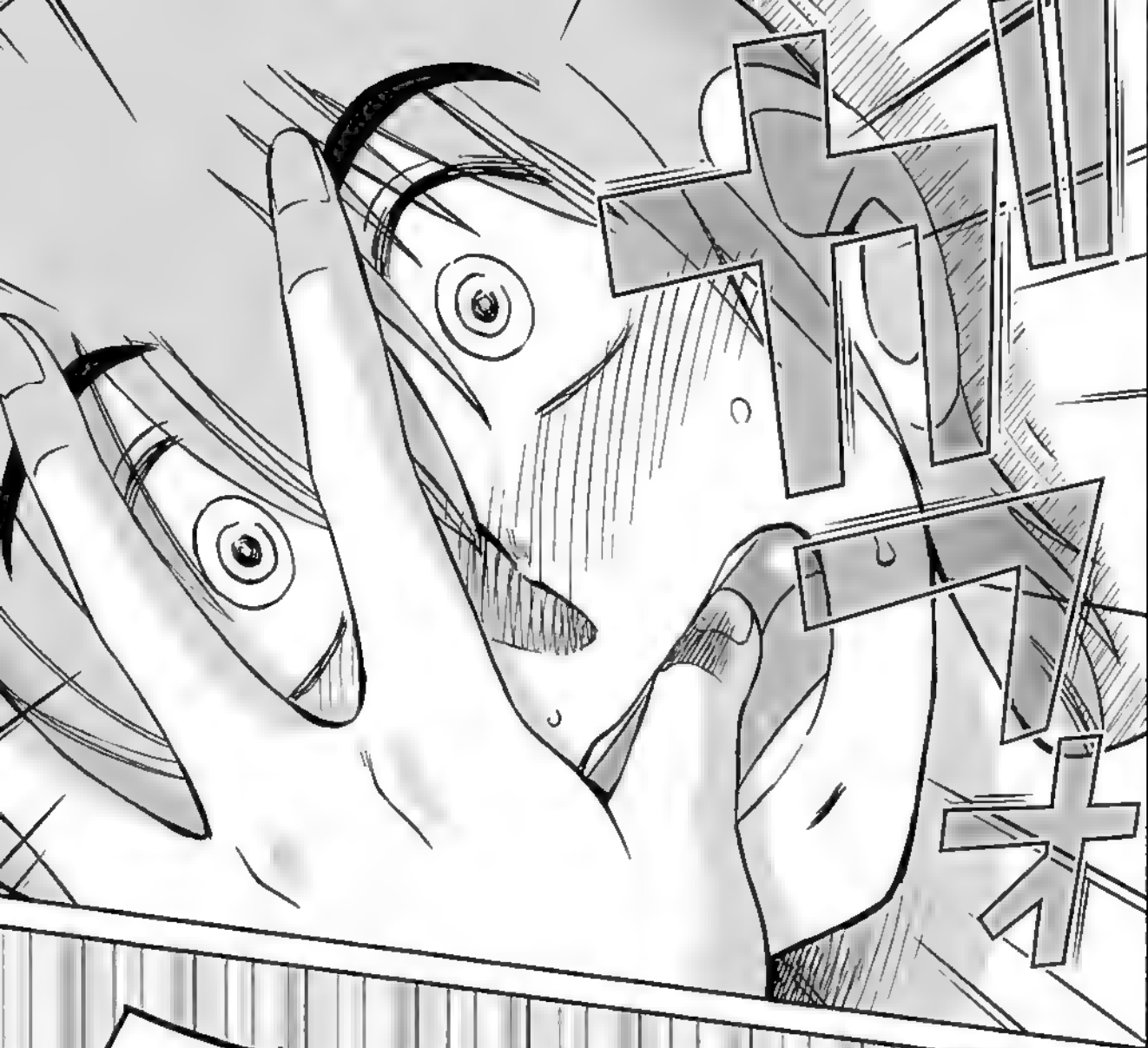
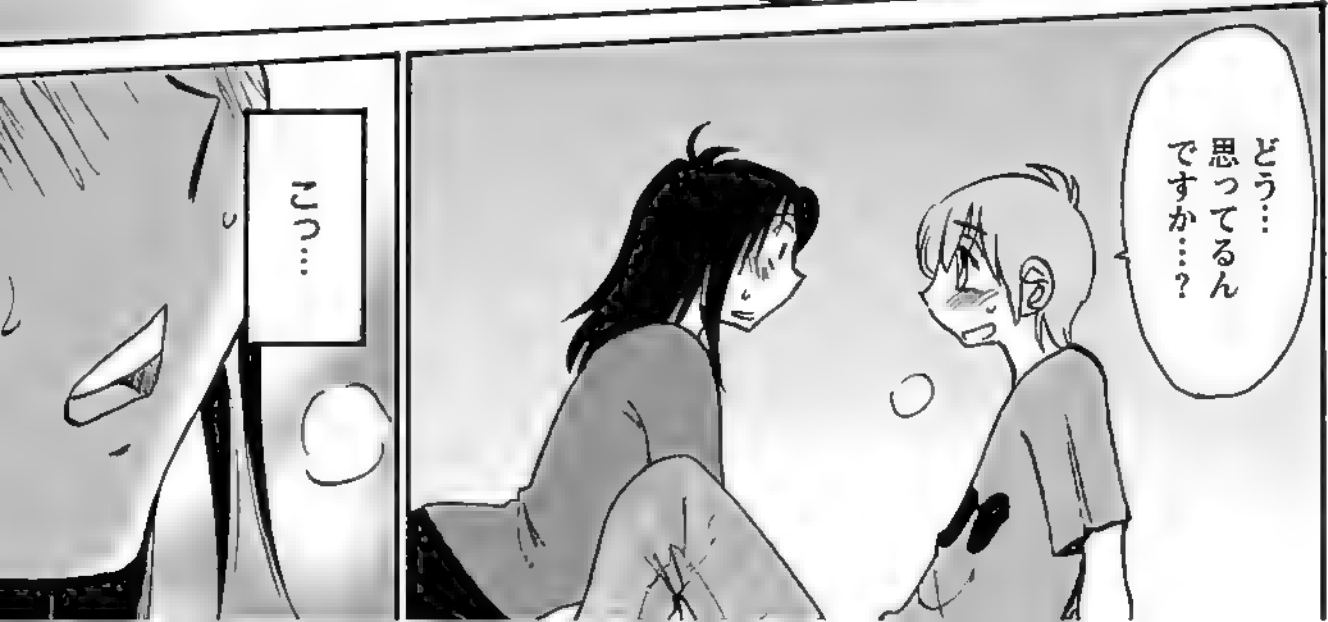
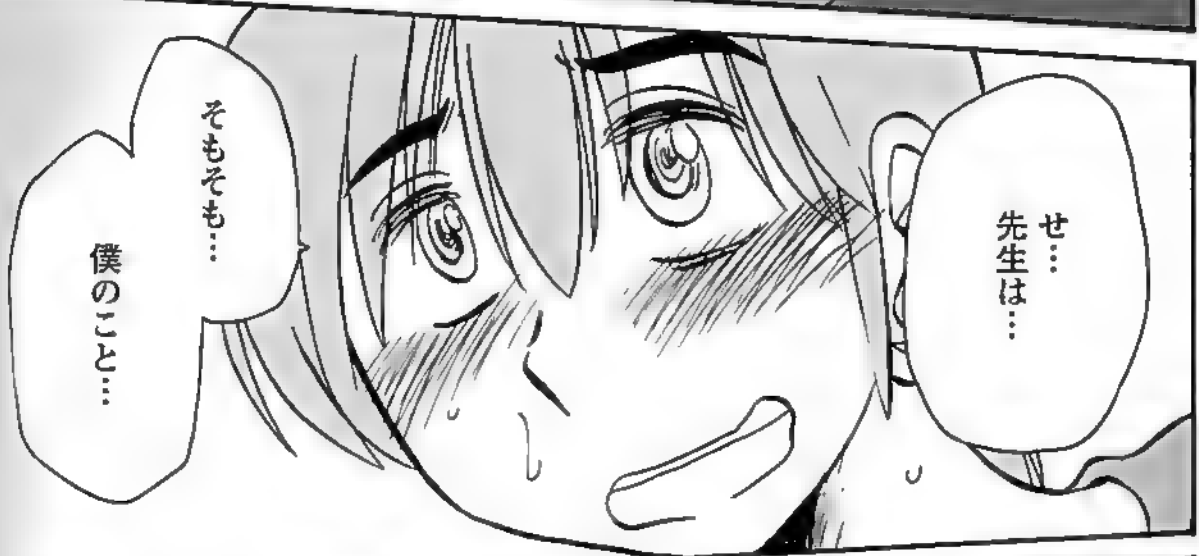
え…
そんなの…ッ

ド

アキくんは・・・
私の・・・

先生が
こんな近くに
——ああそうか
これは

これも
きっと
食べてもいいやつだ・・・・

第48話
大人の階段
のぼってたの?

あ……

キッ　キスッッ
だめってゆったし!!

ひゃ…
ひゃって
グググググ…
へんへいが
おひたほひへ
そっ…
それは…ちょっと
問い質そうとして
…勢い余って…
ぬぽんっ
ま…
まさみちゃんには…

僕のことが
…好きだって
………
言われました
せ…
先生は…
そもそも…
僕のこと…
どう…
思ってるん
ですか…？
こっ…

この子
反撃してきたッ…!!
どう…って
そんなの…
そんなの
ずるい
分かるわけないじゃない……の

そもそも
こんな
おかしな関係に

いつの間にか

なぜか
なってて

でも
お互い
なんとなく
そのへんは

ギュッ

深く考えない
って暗黙の
了解じゃ
なかったの
……!?

そうよ

じゃあ…

それなら
私だって

アキくんは
どう思ってんの
……!?

私のこと
……!!

うえっ
そんな…
質問に
質問で返す
なんて
ズルい…

だって
そうでしょ
そんな
大事なこと
聞くなら…

まず
自分からよ！
アキくん！
それは…

だって…
その…先生
結婚してるし…
あんまし
迂闊なこと
言えないし…

迂闊って何？
……

その…感情をはっきりさせちゃ…
いけないいな…っていうか

そ…それってえっと…
その…
私のこと…を
す…
はァ…

セックスの対象としてみるのは…
よくないなァ…って…
うわあ

僕…一応…
童貞じゃないですし……

えっ

えっ
えっ?
え?
だって…アキくん…
あれ?
あっ
そう?
あら
あ
そっ
そんな風に見えてました……?

僕だって
ほら！
あんなマンガも描くし！
一応は経験を…

えっ
ああいうマンガって
経験…？
実録なの……？
あ——
そう？

いえっ違うっ
違いますけど…っ
その…
少しは知ってないと
ダメかな……って
やっぱ…

……
そう…
…そっか

フラリ

帰る…
フラ
えっ
急に!?

カァ
カァ

つまり…アレだ

昨日…あの子とは何もしなかった…

でも…昔誰かと

そーゆーことをしたことがある…と…

……私の知らない頃…
私の知らない誰かと…
そうよね…そりゃ…
いい歳なんだし
アキくんが童貞とかなんで私…
そう思ったんだろ…
……
イメージよね…
なんか…仔犬みたいで
とても女の子とうまくやるように見えなくて…
だから…私とエッチなことすると…
必死で…

何よ
そんなふうで
私のオッパイ触っただけで
あんなにうろたえて…喜んでたくせに…
昨日は…あのコと…
…そんな…キス…

キスを…

ゴロン

ううう…

……

さっき…

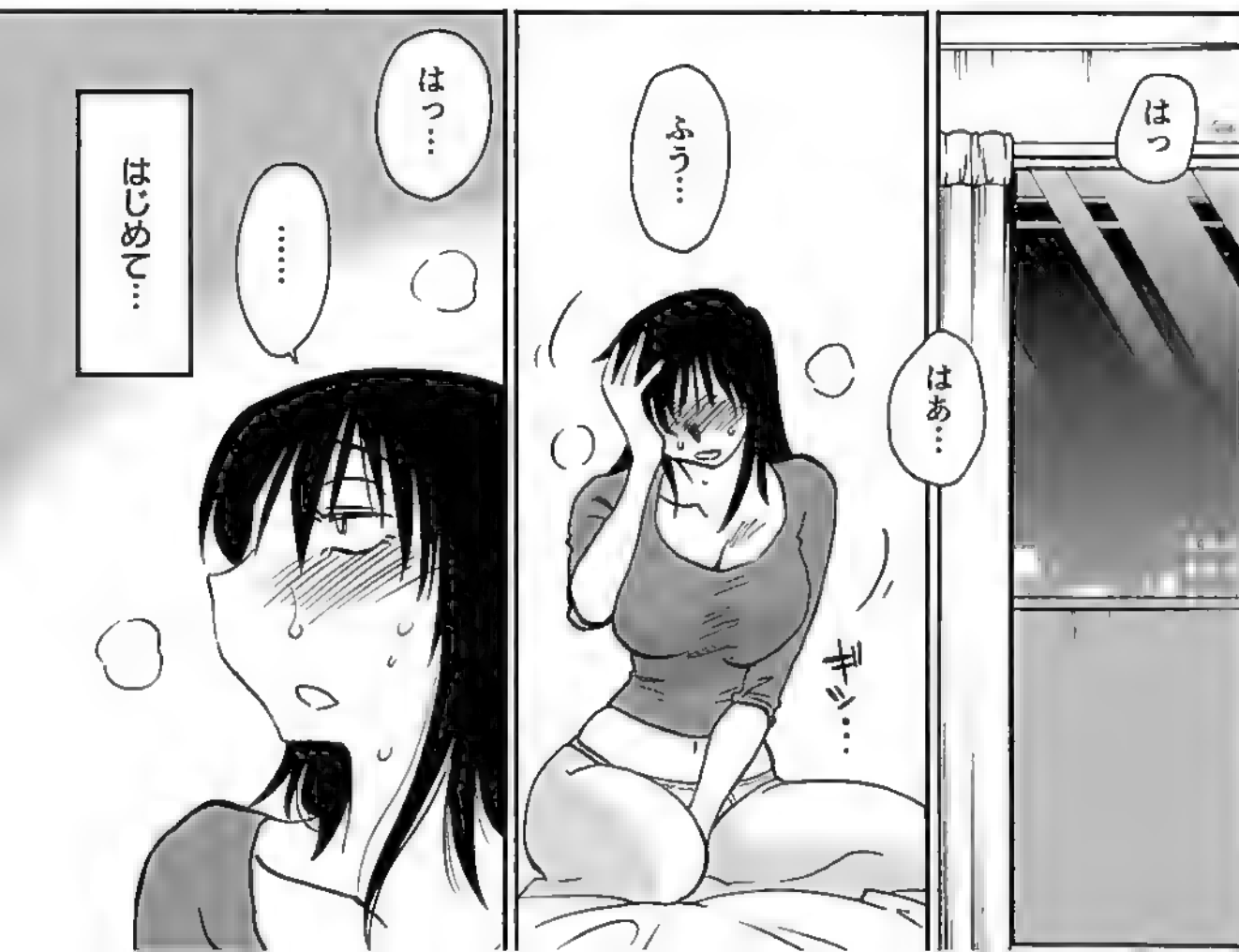
あのまま

口を
合わせたら

合わせたら
きっと
もう…
は
とまんなかった
…よね…
はっ

きっと
お互いをまさぐりあって
すごい格好で絡みあって
からみあって……
あ…あっ私きっとアキくんの…
あ
の……を
は

あ
きっと…
はっ
はぁ
きっと
ノドの
奥まで
……!!
ギュッ
ギッ
あっ
ギッ
は
されちゃって…
ギュッ

あ…
あっ
ああ……ッ
ビク
ビク
ビク
はっ
はあ…
ふう…
ギッ…
はっ…
……
はじめて…

アキくんとセックスする
想像しちゃった………

ハハ…
想像なのに……

やっぱり…最後までいかないんだ…
私たちって

第49話
このページ
描き直しですよね?

はあ　はい
あ　よかった
じゃあこれで6・7話分の原稿に入って…
あ　はい！　わかりました
ではまた！　はーい　よろしくです！
難航していたネームがようやくできて
OKをもらった
はぁぁぁぁぁ
よかった…　やっと進める！

熱海に…
思えば
この半月…
まさみちゃんと
ホテルに
いって
いろんなことが
ありすぎた…!!
そして
先生と…

いや僕
それでよく
ちゃんと
ネーム
やったよ!
エライよ!
うん!

ガチャ
じゃあ
朝飯買って来て
ちゃちゃっと
食べて…
さっさと
下描きに
とりかかろう

また
忙しい日々の
始まりだー
さて

ネームのように
お話をつくる
ときは
脳をフル回転
させているので
他のことを
考える余地は
無いのだけど

原稿を描く
ときになると
それはもう
ひたすら
作業なので
逆にアタマの
中では
いろんなことを
思ったり
考えたり
カリ
カリ

思い出したり…
シャッ
シャッ
シャッ

…思い出したり
……
う…
うううう
なんで
なんで
僕…
あのとき…
ぼく
童貞
じゃ
ないで
すし
あんなこと
ゆったんだろ
………!

いや…
ホントに
ちがう
ちがうんだよ…？

童貞か
そうでないかと
言えば…
ぼくは
ちがう…
ハズ
そ　そう

二進法だ！
そう
二進法で
1か0かと
言われたら！
イチ！
僕は1のほう！
イエスだ！
たとえ
それが……
がっ…
くっ
ヨヨヨ…
…それについては
思い出したくない
…な

……僕は……
いったいだれに
釈明してるんだ…
………
だって
なんで…あんなカオして出ていくんだよう…
まるで…
僕がウソつきみたいな…
ギシッ

たしかに…まぁ

先生に
童貞って
きめつけ
られて…
よくわからない
プライドが
発動して…
反射的に
言っちゃった
ってのはある…

いや…
確かに
ちがうんだよ
…僕は…
童貞じゃぁ
…ない
……ないけど

…べつに
〝そうです〟と
言っても…
まちがいでも
ない程度の…

……もし……

ムクリ

わたしを
筆おろしの
相手くらいにしか
見てないんでしょう…？
――って

あんなこと
ゆうって
ことは…
ひょっとして
筆おろしとは
また
古い表現
だけど…

少しは…
僕との…
そういう
イメージ
もってた…って
ことかな…
モジ

あのとき

先生とキスできると思った…

だって…先生…あのとき目が…もう
受け入れてくれる感じだったのに…
………
「受け入れる」……か

うわ
なんか…
やらしいな
〝受け入れる〟
……
フフフ

ひょっとして…
もし
僕が
あのとき

童貞だって
ゆってたら
先生は

先生は…
じゃ…

じゃあ…わたしと…
する…？
いやちがうな―――！
そうじゃなくて…
こう…
SAME
どうせだから普段の先生とはちがうかんじで
いいよ…アキくん
はじめてならほら

わたしが
うけいれてあげるから

はっ
ドクン
はっ
ドクン
はっ
ああ
ほら
アキくん
ここ…だよ
これ
こんなこと
センセイが

いうわけ
ない…ッ
ゼッタイ
言わない…ッ

ここに
挿れるん
だよ
ないのに
よけい
はっ
だから
は
くるッ
あ

お

げっ…原稿…っ
原稿にっ…
下描き終わってたのにいいいいっ
あっ…あああ

チュン
チュン
やっと下描き終わった…
やり直し含めて
メシでもくってひと眠りして…
ペンを…
ガチャン
ガチャン
あ
あ

おは…よー
おはよう…
ございます

…朝ごはん
買いに…？
はぁ…
先生も…？
うん

ELEVLN
たばこ
ありがとー
ございましたー
………
………

昨夜の
妄想のせいで
すっげえ
なんか
気恥ずかしい…！

先生が
知ってるはず
ないとはいえ…
ねえ
そういえば
昨夜
は
何か一人で
騒いでたけど…
どうかしたの？
うわああ
きこえて
た

えっ
あっ…
いや
おちつけ！ オレ！
知ってるハズ
無いんだから！
ドキッ
…うん
なんていうか…
なんて
ゆーか？
？

妄想のしすぎは…
ロクなことがないなぁ…って
そんな…
………
そ
そうよね…
ほんと
あっ…
そう!
そうでしょ!?
ですよね!

なーんか意味無く罪悪感っていうか…
気恥ずかしいっていうか…
あーそうほんとそうよねー
ランラン
あれ?先生もなにか心あたりが…
あああああるわけないじゃないっ
バカじゃないの!?
そんなきっつい
うんごめん
あそうだ
明日からまたアシスタント来てもらうんで
少々賑やかになるかもですけど…
あーそうなんだ

…あの2人両方とも来るの？
あ
ええ2人とも

…そっか
それならいいや

がんばってね
はいがんばります
その

“それならいいや”は
どんな目線からなのか

そんなことを考えながら仕事してたら
また少し遅れた

RAKUJITSU-NO-
PATHOS

4コマのパトス

ほらアキくん
ここだよ…
こんなことセンセイが
いうわけない…ッ
もん
もん

ここだよデッサン狂ってる
わたしが直してあげる
そう
センセイが

主人公の心情をもっとわかりやすくしないと
ヒロインをもっと可愛く
ここの構図もっと工夫して…
言うわけ…

妄想のしすぎはロクなことがないなぁ…って
原稿中にするんじゃなかった
そうよねほんと

第50話
アイツぶっころしても
いいですか？
うん

ちゃんと
食べよーけん
大丈夫って

※うるさいなあ

もー
わかったけん
うん
※しゃあしかね
ーー！
年末には
帰るけん！

こげん朝から も〜〜〜〜
ハイハイ そんじゃあね

ま…まァ
確かに今日は
朝帰りだった
けどさ！
さっき
帰って来た
トコだけどさ！
べーつに
やましいコト
何一つ
しとらんし！
ポスッ

……
——————ハァ

ワインは
失敗
だったなー…
ろいろこじらせたんだ
僕!!
きっと!!
あははははは
まさかセンパイ
…あんな
ヘベレケに
なるなんて
想定外…
おもしろかったけど…

この
勝負下着も…
チラ
結局意味
無かったなー

やましいコト
してほし
かったな…
あー
あのまんま
ゲロ被っとけば
よかったのかなー…
ぼふっ
そしたら
否応無しに
シャワー浴びて…
フフ…
フフフ…
………
でも…
フフ…
やっと…

せんぱいと
キス…
したな
センパイの舌…
いっぱい…

――だって…そうよ
あのあと私のこと
押し倒してきたんだもん…

――うわ
やば
こんなふうに…
ゴソ…
へへ…
センパイの手が私の胸を…
そんで…きっと…
きっと…

あのとき
目の前で
見た
センパイの
アレで
今度は
口じゃなく…
モゾ…
あ 口で
してから?
どうだろ
でも

最後には私のなかに
ふふ
アレが身体のなかに入って
ふふふふふ
センパイと繋がるんだ………!
ふふふふふふ

ああ
ずっと…センパイと
ふふ…
うふふふふふふふふ
そうなりたかっ…

え!? 息が荒い!?
ドクン
ドクン
ななな なに いいよっと
ちょっと フロの掃除 しとっただけ!
は～…
…お母ちゃんは ほんと
昔から 間の悪か人ね…
なんだろこの そこはかとない 罪悪感…
はあ… でも
センパイは

私が・・・はじめての女になるのかな…
ふふっ
センパイってぜったいドー…

…………
…………

まさか…
…とは思うけど
あのトナリの
ゴゴゴゴ

目つきの悪い
チチ女

…とか

私をああして押し倒すなんて
そんな不誠実なことしないハズ!
センパイはそんなヒトじゃないもの!
グッ

あーもー
おかあちゃん
もお〜〜〜〜
しつこー
もしもし
えっ
あれ?
——んにちは!
担当さアん!
いえいえ
あはははは

はっ…はい
あはははは
おか…
母がちょっと
何度も
いえっ
そんなことは…
ハイ

それはそうと
あの応募した
原稿！
評判いいよ！
えっ

ほっほんと
ですか…!?
よかった…
選考会は
まだ先だけど
多分
何らかの
賞は確実
だと思う
！

そうなったらなおさら次回作大事だからね
新しいネームはやってる？
あっはい！

もう八割ができてるので明日には…
うんうんいいね

そういえばアシスタントやってんだっけ
はい 藤原アキ先生のところで
フジワラ…アキ…？

あー！ ちょっと前からチャレンジャーで連載やってる
はい！そうです
知ってる知ってる

フジワラさんは隔週連載だっけ
結構大変でしょー
そうですねー
でも勉強になるし楽しいですし…

うん でも受賞次第では
それも少々考えないとね
え?

ほら うちの場合大きい賞とった子はそのまま連載とかあるから
もしそうなったらね
さすがにアシスタントなんてやってられないからさ

いやー
神保くんは
編集部でも
期待されてるから－！
頑張ろうね
──はい…！
グッ
ありがとう
ございます！
がんばります！
では
はい
はい
失礼します！
……そっか…
確かに
そうなったら
アシスタント
辞めないと
だなァ…
カチャ…

……
ストンッ
センパイと
会う機会
減っちゃうなあ
!!
ミ
忘れてた…
こんなの
穿いてたっけ
スッ
でも
そっか…

だから
今のうちに
もっと
もっと
アピールして
おかなきゃ…

ふふっ こういうの センパイに 送ったら
すっごい キョドっちゃう のよねー

……
ピタッ

――やめとこう
センパイの 原稿に差し障りが あるとよくないし
たぶん 引かれるし

ま それに
連載なんて まだまだ 先の話

センパイの横で
仕事する以上
いくらだって
チャンスは
あるんだもん
カリ
カリ
カリ
カリ
だから
いつか…
きっと…！
カリ
カリ
カリ
ガリ
カリ
カリ
そして
数日後
センパーイ
6Pと8Pの
背景あがり
ました—！…

いやァー やっぱ2次元最強っすよ！
やっぱそう？ そうかもなー
理想そのままに現実っスから
スタイルだって！
あー なるほどねー
わかるわかるー
何より生身みたいに文句言わないっス！
確かに！ あははは

4コマのパトス

第51話
これが
シンクロニシティ
ってやつなの？

そうですねー
もう3年くらいレスですあはははは
そうですねーもう3年くらいレスです
ーというように町中でインタビューしただけでもですねー
実に4割が〝レス〟だという声もあるんですねー
バーン

はぁ…
セックスレス
……ねェ
ボリ
ボリ
ダンナさんが
腰を悪くして
以来…
うちも
そうなりつつ
あるよね…
ガサ
………
ていうか
完全に
レスよね…

はぁ…
数年前まではレスの話とか聞いても
ジャー
なんだよ お前そんな性欲魔人かよとか思ってたけど…

いやーなるほどね
離婚案件になるのわかるね!
ジャー
——って私が性欲魔人かよ

…ううう
ブル
ブル
ブル
自虐にもならない…
ああ…いつから私こんな…
エッチな…

いや…
けっこう…
うん…
学生の頃から
…そうだっけ
ただ…まあ
ダンナさんと
はじめて…
…ックス
してから…
歯止めが
きかなく
なった…?
いや…
…違うよね…
ダンナさんとも
たしかに
それなりに
してたけど…
スイッチが
入ったのって…

なんだこのイメージ

……アキくん
…だよね

あれから なんだか
アキくん との距離が
一気に 近くなった ……
…のかな

ミツアキはほんっとバカよね
ワイ
アキくんとこ…食事か
ワイ
いやちがうっスよ!
わかってて
やってんだから
アキ
カネはあるんスから
ええ大丈夫っス
……
そういうトコだぞミツアキィ
さて…
買い物でも行くか…
ガタ

なんだろなー
むこうのテンションが高ければ高いほど
こっちのテンションがだだ下がるっていう
そばうどん

──ま基本同じ趣味の人たちだし
そりゃ盛り上がるよね…
部活の合宿とか何回か付き合ったけど……
あのときに似てるなー

別にずっと騒いでる訳じゃないから
迷惑ってこともないけど

でも
さっきみたいにたまに聞こえる楽しそうな声は

かぎりなく
自分を
寂しくさせて

部屋に
戻るのが
イヤになる

ドサッ
あ──

なんか久しぶり
ココ

前にアキくんと入ったのが夏終わりだから…
そっか…結構経つんだ

あー…
そっか…

あれから
少し後に
ダンナさんと
したとき…
腰を
悪くして
それから…
してないんだ
……

そうだ
あのときは
ここで…
………
アキくんに
……

暗闇とは
いえ…
アソコを…
うわ…
メチャメチャ
してたな…
スプラッシュ……

そう…
そのせいで
昂っちゃって
ダンナさんと
してるときに
思い出したりして…

そうよ…やっぱり全部

はっ

アキくんのせい…じゃないの

あ

あ

モゾ

はっ

モゾ…

はっ
モゾ…
それは…アキくんと
ヘンなことしてるせいで
ヌル…
よけいに高まっちゃって…
は
あれ…？
おかしい…よね
私…
あっ

ダンナさんとのエッチを求めてる…？
スル…
はずなのに
あっ
エッチなこと
うわ
脱いじゃった
こんなトコで
アキくんとしてばっかりで
…もっと
はじめて
あッ
アキくんともっと…
うわっ…ここに
こんな…

こんな
ぬるっ
指を なかに…
あ
なんて するの…
あっ
あ
あ
はじめて ……ッ

わ…これ…
ここ!?
どこまで入れていいの…ッ!?
あ…っ
ここ…
ココがいい…ッ
ああそっか
クチュッ
グチュ
やっ
ヌチッ

わたし
あ
いく
“経験”と
“欲望”が別々なのに
あッ
あ
一緒に求めちゃってるんだ
はっ
やばっ
あっ

ギュチ

は

こんなトコで…

こんなに

はっ

はっ

ニュ

ズッ

わたし…
おかしく
なっちゃったかなぁ
……

なんで
こんな…

ぐすっ

ヂュッ

ヂュピッ

うっ

……
ひとりで

こんなコト

あ

はあっ

でも
とまらない

こんな…
寂しい…

ギュプッ

は

はっ

グチッ

ヌチュ

はっ

異常
だよ…

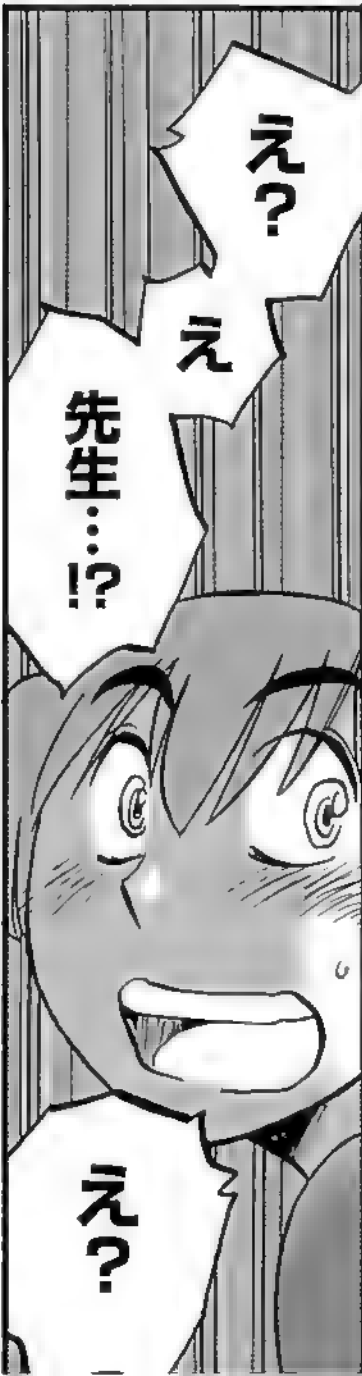
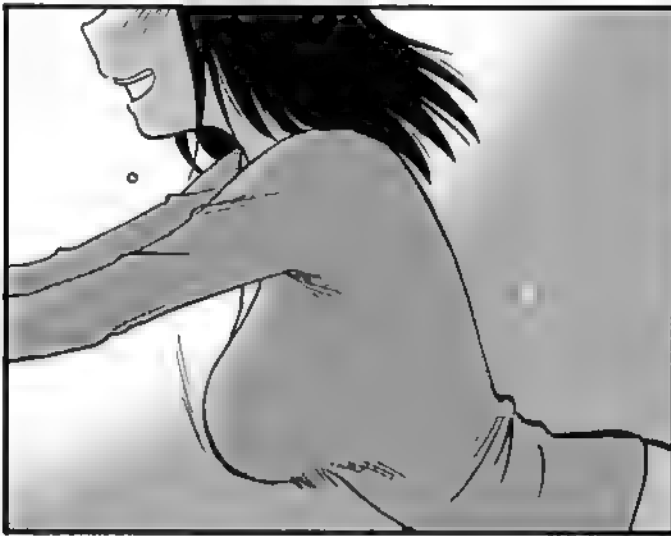
はっ

は

グチュ

あっ

あ…
あ…
は
グギュ
あ…
アキ
くんがいたら…
なんだかせつなくて…
ヌギュッ
ギュク
ギュッ
はあっ
ギュッ
ガシャンッ
ビクッ
え!?
ギィ…

うそ
こんな時間に誰が
管理人!?
そりゃ確かに管理人が来ても
おかしくないけど
私こんな下半身スッぱだかで
もうなんの言い訳もできない……!!
説明のしようがない…!
もう
絶体絶──
あ──…

やっとひとりだァ…

ん————〜〜〜…

おわっ
え？
え
先生…!?
なに!?
え？

なんで
この子は
いつも
うしろみちゃ
だめだよ…
アキくん
いちばん
わたしが──
えっ?
だって
いま
わたし
わたしが
ほしいときに
下穿いて
ないから
え!?
現れるの
『落日のパトス』第⑦巻/完

4コマのパトス

事故物件…—⁉

あとがき
落日のパトス
7巻!!
お手にとっていただいてありがとうございます!
7巻というのは僕にとっての最長巻数になりました。
うれしいうれしい♪
この先もがんばりますよう!
どうぞこれからもパトスをよろしくおねがいします!
2019.3.10

RAKUJITSU-NO-PATHOS
次巻予告
おわ
ビクンッ
再びヒミツの部屋でともになった二人…。
熱欲のひとときが二人を包み込む…。
あ…っ
先生!?
え!?
あ
うあ
うはっ
一体、僕らは…
う
かっ…
カチカチ…
わ
―はっ
はっ
禁断の隣人愛欲物語。

どこまでふしだらになってしまうのだろう――。
あっ
はっ
あ
こんなことができるようになったんだろう
ほら…っ
アッ…
…こんなアキくんだって
あ
だめ
いつから先生と僕は
アキくんがはじめてエッチしたときって
どんなふう
ねぇ
だって…気になるんだもん
な…なんで
どっ…どんな…って
え…っ
アキくんの童貞
なくしたときのおはなし
そして、仲井間は問う。
藤原が落日した時の出来事を…。
止まらぬ背徳の連鎖…。
『落日のパトス』最新第8巻を乞うご期待。

■ヤングチャンピオン・コミックス■

らく　じつ

落日のパトス⑦

2019年4月25日　初版発行

著　者　　艶々（つや つや）
©Tsuyatsuya 2019

発行者　石井健太朗
発行所　株式会社 秋田書店
〒102-8101　東京都千代田区飯田橋2-10-8
☎編集(03)3265-7362　販売(03)3264-7248
製作(03)3265-7373
振替口座　00130-0-99353

印刷所　三報社印刷株式会社

Printed in Japan

ISBN978-4-253-14077-5

デジタル版　2019年発行
製作所　デジタルカタパルト株式会社
http://www.digital-catapult.com